

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：34419

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24830112

研究課題名(和文) 幸福度の順応メカニズムの解明：ブログ幸福度を用いたアプローチ

研究課題名(英文) Clarification of the happiness adaptation: A new approach by Weblog-happiness

研究代表者

山根 承子 (YAMANE, Shoko)

近畿大学・経済学部・講師

研究者番号：40633798

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円、(間接経費) 630,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ウェブログを用いた新しい幸福度測定法を用いることで、これまで不明瞭であった幸福度の順応メカニズムを明らかにすることを目的とした。本研究課題ではブログを執筆している人1100人を対象に10日間にわたってwebアンケートを行い、従来の方法で測定した毎日の幸福度とブログのURLを収集した。これを用いて、従来の主観的幸福度と、本研究課題で提案した測定法の間に関係がみられるかどうかを分析した。

研究成果の概要(英文)：I have conducted the original online survey, and collect the daily happiness measured by usual method and the URL of subjects' weblog. I got the daily happiness and the weblog URL of 1100 subjects. I compared these two daily happiness for each subjects to establish the validity of weblog happiness. The result is under analysis.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：応用経済学

キーワード：行動経済学

1. 研究開始当初の背景

経済学の目的は効用最大化、つまり人々を満足させることにある。しかし、経済学では効用は測定不可能であるという考えが常識であったため、効用を直接的に扱うことはなかった。しかし van Praag (1971; EER) や Easterlin (1974) などによって、心理学や社会学で古くから研究されている幸福度が「測定可能な効用」として経済学にもちこまれた。ここから幸福の経済学と呼ばれる分野が始まり、効用の個人間比較や構成要素の研究が開始され、経済学に対する新しいアプローチを可能にした。

幸福の経済学では様々なテーマの研究が行われているが、経済学にとって重要なのは幸福度が持つ「順応」という性質である。経済学では、所得の増加は効用の増加に直結すると考えており、そのような前提のもと作られた政策も多い。しかし、心理学は set point 理論を支持している。つまり結婚や失業、怪我などは幸福度を変化させるが、やがて慣れてしまい、生来の set point (ベースライン) に「順応」として考えている。経済学においても、Clark et al. (2008; JEL) が、所得の増加の効果のうちの 20% が 2 年後に慣れのため消えてしまうことを示している。しかし、Mehnert et al. (1990; Rehabil Psychol.) は障害を持つ人の幸福度を調査し、障害に対して順応が起きていないことを明らかにした。また、Lucas et al. (2003; J Pers Soc Psychol.) は結婚には完全な順応が存在するが、死別に順応は存在しないことを示した。このように幸福度の順応の程度は、イベントやニュースの種類によって異なっており、順応のメカニズムは単純ではないようである。もし set point 理論が正しく、人の幸福度が完全に順応するのであれば、所得を上昇させる経済政策は意味をなさなくなる。その場合は、順応することを考慮に入れた政策を行うべ

きであろう。効果的な政策を打ち立てるためにも、幸福度の順応メカニズムを探る必要がある。

2. 研究の目的

幸福度の順応メカニズムを実証的に研究するには、同一個人の時系列データが必要である。なぜなら、順応メカニズムは何かしらのイベントやニュースが起きた前後の幸福度を比較したり、起きた後の様子を追跡していくことで明らかになるからである。しかし、従来の方法では、幸福度の時系列データを得ることが困難である。これまで、幸福度のデータは「今あなたはどのくらい幸福ですか」という質問に 0 点 (非常に不幸) から 10 点 (非常に幸福) までの点数で回答を求めるといふ、質問紙法 (アンケート) によって収集されてきた。このような主観的な幸福度測定手法は、認知プロセスの個人間差異を包括しており、非常に有効な方法である (Frey and Stutzer 2002)。しかし、調査に多大な金銭的コストがかかることが弱点である。アンケート調査を用いて月次や日次パネルの幸福度データを得るためには、巨大な回答者プールと十分な資金が必要となる。

そこで本研究課題では、新しい幸福度指標として「ブログ幸福度」を提案した。ブログ幸福度とは、ウェブログをテキストマイニングすることで幸福度を測定しようとするものである。テキストマイニングとは膨大なテキストデータを文字や単語、フレーズなどに分解し、これらの関係を定量的に分析する手法である。具体的には、ある日のブログ記事からプラスの感情語とマイナスの感情語の数を抽出し、その差をその日のブログ幸福度とする。ブログ幸福度は主観的測定法の長所を保持しながら質問紙法の弱点を克服した測定法であり、アンケートを行うコストをかけずに大量の日次デ

ータが入手可能であるという利点をもつ。ブログ幸福度は幸福度の順応メカニズムを探るのに非常に適した特性をもっているといえる。

3 . 研究の方法

本申請課題ではまず、ブログ幸福度の妥当性を確認する。次に、状況が変化したときの幸福度の変化の度合と順応の程度を、その変化の種類や大きさを考慮に入れながら調査する。特に社会的な状況変化と個人的な状況変化が与える影響の差を考慮する。次に、英語圏のユーザーによって書かれたブログを対象とすることで、幸福度の順応に関する国際比較を行う。最後に、マイクロブログ Twitter を用いて秒単位の時系列データを入手し、幸福度の順応メカニズムをより詳細に検証する。

4 . 研究成果

本研究課題では、ブログを書く習慣のある人 1100 人に web アンケートを行い、従来の方法(「あなたは今日、どの程度幸せでしたか。「非常に幸福」を 10 点、「非常に不幸」を 0 点としてお答えください。)」による幸福度を 10 日間にわたって測定した。アンケートでは属性情報に加え、各人のブログの URL を収集している。この URL を用いて調査当日の記事をマイニングし、それぞれの人のブログ幸福度を算出した。現在結果を分析中であり、従来の方法で測定した幸福度と、ブログ幸福度の推移を比較することにより、ブログ幸福度の妥当性を確認している。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

Shoko Yamane, Ryohei Hayashi 2014. Peer effects among swimmers. Scandinavian Journal of Economics (印刷中). 査読有

Shoko Yamane, Naohiro Matsumura 2014. The Effect of a Ticking Clock on Task Performance. AI&Society (採択済). 査読有

Shoko Yamane 2013. Endogenous and Heterogeneous Goal Setting. Kinki Working Papers in Economics No. E-28. 査読無

Shoko Yamane, Hiroyasu Yoneda, Taiki Takahashi, Yoshio Kamijo, Yasuhiro Komori, Fumihiko Hiruma and Yoshiro Tsutsui. 2013. Smokers, Smoking Deprivation, and Time Discounting. The Journal of Socio-Economics. Volume 45, Pages 47-56. 査読有

Shoko Yamane, Taiki Takahashi, Akiko Kamesaka, Yoshiro Tsutsui, and Fumio Ohtake. 2013. Socio-Emotional Status, Education, and Time-Discounting in Japanese Non-Smoking Population: A Multi-Generational Study. Psychology 4(2) 査読有

[学会発表] (計 3 件)

岡駿一郎, 山根承子, 松村真宏 2012

年6月12日 「ピタリ効果による食生活の改善」 第26回人工知能学会全国大会 於山口ふるさと伝承総合センターみやび館

Shoko Yamane and Naohiro Matsumura "The Clock Effect on the Task Performance" SCIS-ISIS November 21th, 2012, Kobe Convention Center.

Shoko Yamane, Hiroyasu Yoneda, Yoshiro Tsutsui 2012年12月8日 "Are facets of Homo economicus associated with higher earnings and happiness?" 第6回行動経済学会 於青山学院大学 青山キャンパス

〔図書〕(計 0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山根 承子 (YAMANE Shoko)

近畿大学 ・ 経済学部 ・ 講師

研究者番号 : 40633798